

2025 Autumn

ぬくもり群馬

[INDEX]

- P2 副会長あいさつ
- P3 ソーシャルワーカーデー
- P4-5 設立60周年記念大会
- P6 学生向け研修
- P7 委員会紹介

一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会



副会長あいさつ



日頃より、当協会ならびに医療ソーシャルワーカーの活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

去る8月30日、群馬県社会福祉総合センターにおきまして「設立60周年記念大会」および「第1回群馬県医療ソーシャルワーク学会」を開催いたしましたところ、関係各方面の皆さまより多大なるご支援を賜り、盛会のうちに無事終了することができました。ご参加くださった皆さまに厚く御礼申し上げます。

当協会は1962年（昭和37年）、十数名の有志が力を合わせ「群馬県医療社会事業協会」として発足いたしました。その後、幾多の困難を乗り越えながらも歩みを重ね、60年という節目を迎えることができました。偉大な先人たちの尽力の上に私たちが立っていることを思うと、改めて身の引き締まる思いであります。

2018年には法人化準備部会を設置し、翌2019年に一般社団法人格を取得いたしました。当初は法人化を記念し、2020年に「法人化記念式典」を開催する計画であり、実行委員会を中心に準備を進めてまいりました。しかし、世界を襲った新型コロナウイルス感染症の拡大により、人々の暮らしや社会の在り方そのものが大きく揺らぎました。私たちも例外ではなく、記念式典の開催を断念せざるを得なかったことは誠に残念でありました。

その一方で、コロナ禍は医療ソーシャルワーカーの存在意義を改めて照らし出しました。人と人をつなぎ、医療と生活をつなぎ、困難の中にある方々の声を社会へ届けることこそ、私たちの使命であると再認識できました。社会が大きく変化する今だからこそ、私たちの役割はより重要になっていると確信しております。

今回の60周年記念大会を盛会のうちに終えることができたのは、協力いただいた会員一人ひとりの力と、日頃より当協会活動にご協力いただいております、多くの方々の温かいご理解の賜物です。私たちはこの60年の歩みを礎とし、次の時代へ力強く進んでまいります。これからの10年、20年を見据え、次の世代を担う若い世代の育成を一層推し進めるとともに、地域社会や医療現場において求められる役割に果敢に答えてまいります。

変化の激しい時代にあっても、医療ソーシャルワーカーが果たすべき使命は明確です。患者・家族の尊厳を守り、多様な価値観を包摂し、誰一人取り残されない社会を築くために尽力してまいります。そのために、会員相互の研鑽を深め、学術的な探究と実践を両輪として歩を進めてまいりたいと存じます。

今後とも、皆さまの変わらぬご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

一般社団法人群馬県医療ソーシャルワーカー協会
副会長 星野裕一
(鶴谷病院)



2025 Autumn

ぬくもり群馬



ソーシャルワーカーデー

ソーシャルワーカーデー2025 in Gunma 開催報告

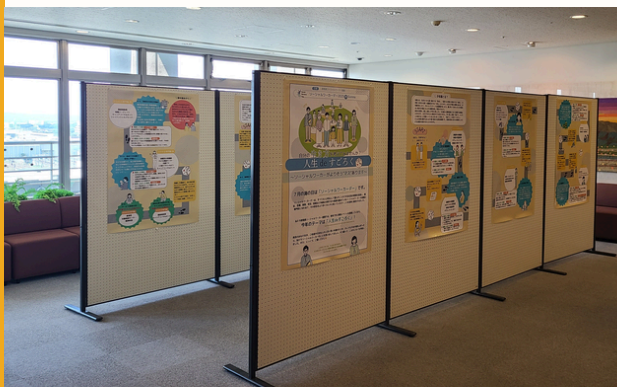
2025年7月26日（土）、「ソーシャルワーカーデー2025 in Gunma」が群馬県社会福祉総合センターにて開催されました。今年は「人生の生き方を考えてみませんか？「人生 de すごろく」～ソーシャルワーカーがよりそう“マス”あります～」をテーマとして、長い人生の中でつまづいた時、頼れる社会保障の仕組みがあり、ソーシャルワーカーや色々な専門職など支える人がいることを、広く発信する目的として企画しました。当日は、県内外から福祉・医療・教育など多様な分野で活躍するソーシャルワーカーや関係者、学生、市民など約200名が参加しました。

講演会においては「家族の逝き方と自分の生き方」をテーマに、第1部では「親たちはどう生きるか」の著者であられる青木佑太氏にご登壇いただき、4歳の息子さんを自宅で看取った経験から得た人生観・死生観と今をどう生きているかについて熱く語っていただきました。第2部では、青木夫妻と息子さんの主治医であった萬田緑平先生（緩和ケア 萬田診療所 院長）のトークセッションで、「今だから聞ける当時のこと」を3人で語り合っていました。

また、会場内には「人生 de すごろく」と題し、人が産声を上げてから息を引きとるまで寄り添うソーシャルワーカー等の専門職の仕事をすごろく形式で紹介したパネル展示や、「こころ晴れカフェ」と題し、来場者の“人生のため息”をソーシャルワーカーがそっと受け止める相談・休憩コーナーを設け、来場者が自由に見学しながらソーシャルワークの多様な実践に触れていただきました。

真夏の極暑にも負けないくらい、心熱く温かい1日になったと思います。
ご来場いただきましたみなさま、ありがとうございました。

ソーシャルワーカーデー実行委員
津田 至
(SUBARU健康保険組合 太田記念病院)



2025 Autumn

ぬくもり群馬



設立60周年

開催報告

8月30日に群馬県社会福祉総合センターにて、当協会設立60周年記念大会「医療ソーシャルワーカーの歩みを…未来へ」が開催されました。この大会は当協会が2022年（令和4年）8月に設立60周年の記念事業として開催する予定でしたが、コロナ禍の影響を受けたため今年度の開催の運びとなりました。当日は多様なプログラムが企画され、県内外の会員と一般の方々合計145名が参加しました。

はじめに、当協会初の学会として第1回群馬県医療ソーシャルワーク学会が行われ、様々な分野の臨床に関するもの、業務改善、当協会での取り組み等の8演題の発表がありました。会場の参加者からは、会員の取り組みを知り「学びを深めることができた」「自己研鑽に努めたい」等のコメントがありました。

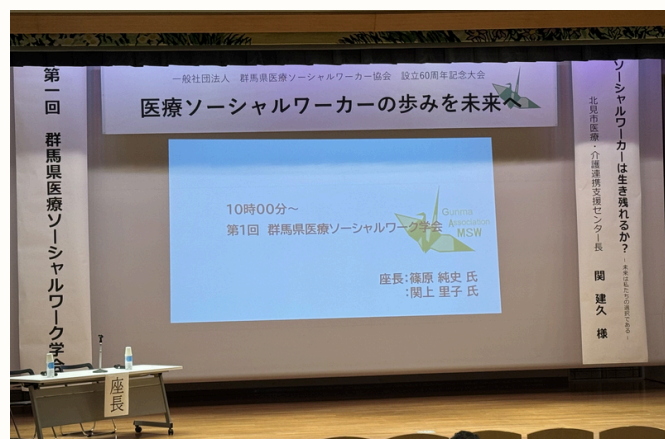


午後の部の記念式典では、日頃より大変お世話になっている県内関係機関や各団体代表の来賓の方々にご臨席いただきました。日本医療ソーシャルワーカー協会 早坂会長より、当協会とのこれまでのつながりや今後も互いに協力しながら医療ソーシャルワーカーの発展を目指していくといったご挨拶をいただきました。

設立60周年記念大会 実行委員長

高橋 紀貴

（国立病院機構 高崎総合医療センター）



同時時間帯にプレ企画として「社会保障ゲーム」を開催しました。このゲームは、架空のキャラクターに起こる生活上の「ピンチ」を題材に、利用できる社会保障制度を探し解決していく、社会保障の仕組みを学ぶ体験型のゲームです。開発者のNPO法人Social Change Agency代表理事 横山北斗氏をお招きし、ゲームの説明をはじめ開発経緯等についてご講演いただきました。参加者からは、専門職としても制度についての検討や意見交換ができ、貴重な体験になったと好評でした。



記念大会

GUNMA
MEDICAL SOCIAL
WORKER
ASSOCIATION



記念講演では北見市医療・介護連携支援センターセンター長・北星記念病院医療ソーシャルワーカー関建久氏より、「ソーシャルワーカーは生き残れるか？ー未来は私たちの選択であるー」をテーマに2040年の日本社会を見据えた医療ソーシャルワーカーの未来について、過去から現在までの医療ソーシャルワーカーのあゆみや立ち位置を振り返り、今後AI等のデジタルテクノロジーに業務がとって替わることが予測される中、私たちが存在する意義やどこをめざし歩んでいけばよいのかと、深く考えさせられる内容のお話でした。



最後のシンポジウムでは歴代会長より「ソーシャルワーカーの歩みを未来へ」と題して、医療ソーシャルワークの変遷と並行しながら当協会のあゆみについて、各会長が新人の頃から現在まで体験してきたことや感じてきたことを交えながらディスカッションしていただきました。各会長より、これからを担う会員に向けて温かみもありつつも、気が引き締まるメッセージをいただきました。大会終了後には、会場からほど近いホテルで祝賀会を開催しました。テーブルを囲みながらの会員同士の交流や、余興として50周年記念誌に掲載された当時の会員の写真と現在の写真を照らし合わせたものや大会当日の様子の写真のスライドが流れ会場を盛り上げました。

この大会を節目として、医療ソーシャルワーカー一人ひとりが自らの専門性と社会的使命と会員のつながりを再認識し、よりよい未来の実現に向けて力を合わせていく機会となりました。今後とも当協会へのご協力をよろしくお願いいたします。最後にご来賓の皆様、ご参加いただいた皆様、そして日々の業務多忙な中尽力いただいた実行委員の皆様のおかげで無事大会を開催することができました。この場をお借りして心より感謝と御礼を申し上げます。



2025 Autumn
ぬくもり群馬

学生向け研修

群馬県医療ソーシャルワーカー協会研修企画委員会



高崎総合医療センターにて

2025年6月15日開催



当協会では、学生の職業選択を支援する目的で2015年より「学生向け研修会」を開催しています。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で実施できない年もありましたが、今年で本研修会は10回目を迎えました。

今年度は高崎総合医療センターの皆さまにご協力いただき、昨年度同様に医療機関での開催ができました。学生の皆さんが参加しやすいよう、「午前のみ」「午後のみ」「全日参加」から時間を選択できる形式を今年度も採用し、県内外の大学に通う延べ41名（午前の部37名、午後の部39名）の学生に参加いただきました。プログラムは午前の部、前半に「MSW支援の実際」をテーマに急性期病院・ケアミックス病院より医療機関の機能視点から職務の実際を、後半は領域別に小児支援・災害支援・外国人支援の実際について講義を行いました。午後は「先輩が伝えたい面接技術」と題して現任ソーシャルワーカーからの講義と、現任ソーシャルワーカーへのインタビュー、最後に病院見学とそれぞれ短時間ではありましたが少しでも実際の職場・業務を感じていただけるよう意図して研修を行いました。アンケートにおいて「より現場の雰囲気を感じることができた」、「リアルなことから少し気になっているところまで聞くことができてよかった」と好評でした。

本研修にご協力いただきました講師・協力員の皆さま、会場を提供いただきました高崎総合医療センターの皆さま、ありがとうございました。今後も研修委員一同、より良い研修が行えるように取り組んでまいります。

2025 Autumn

ぬくもり群馬



調査研究委員会

委員長 高林亜希子
(希望館病院)

調査研究委員会は、現場課題を可視化し、専門職の知を体系化し、政策提言や実践力向上を通じて医療ソーシャルワークの社会的意義を高めるため、活動しています。

具体的には以下の3つを活動の柱として掲げています。

- 1) 会員へのソーシャルワークリサーチへの啓蒙として
調査研究委員会企画研修の実施
- 2) 会員へのソーシャルワークリサーチへのサポートとして
調査研究サポート事業の実施
- 3) 有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅における
権利擁護に関する調査研究(人権擁護・身元保証検討委員会共同)



1) の研修会については、第1弾として、オンラインでの研修会を企画しました。

テーマは、「太田記念病院の男子3名による、日本医療社会事業学会(大分大会)での、ゆる〜い、経・験・談」、講師は協会の原一正氏(太田記念病院)です。この研修会は、学会参加・発表は自分が思っているほど難しくなく、むしろ楽しいことなんだ!と思えるような研修内容としました。調査研究や学会発表をどのように業務に活かしているのかを協会員に知ってもらうことが目的です。

2) については検討を続けています。

3) の調査研究は群馬県社会福祉士会、群馬県精神保健福祉士会との3団体のほか、人権擁護・身元保証委員会とも合同でおこなっている研究活動です。医療ソーシャルワーカーが日頃の業務でかかわることの多い事例として、群馬県内の有料老人ホームおよびサービス付き高齢者向け住宅を対象に、身寄りがいない方の身元保証と医療・ケアにおける意思決定といった権利擁護に関わる支援の状況について量的調査(自記式アンケート調査)をおこない、支援の現状を把握し、課題を明らかにします。

数年にわたり、かかわる団体との度重なる打合せを経て、研究計画書を作成しています。今年度中に倫理審査をクリアし、調査研究の実施、アンケートの取りまとめ、次年度の日本医療社会事業学会(盛岡大会)での結果の公表を目指しています。

小さな一步の積み重ねが、現場の力となり、患者・家族の安心につながります。これからも、協会のニーズや課題に沿った研修・研究活動を実施していきたいと思っています。



委員会紹介



令和7年9月30日発行

編集発行：広報委員会

2025 Autumn

ぬくもり群馬

編集後記

「ぬくもり群馬 2025秋号」をご覧いただきありがとうございます。

本当に暑かった2025年の夏。全国各地で最高気温が更新された記録的な夏でした。なんと群馬県伊勢崎市では41.8℃を記録し全国1位になったようです。暑さとの戦いともいえるような夏もようやく終わり、秋の訪れを感じる今日この頃です。涼しさとともに、心や身体の疲れを感じている方も多いのではないのでしょうか。

秋は「食欲の秋」といわれるほど食べ物がおいしい季節です。豊かな自然が育んだ秋の味覚は、夏にたまってしまった疲れをリセットしてくれるともいわれているそうです。さつまいも、栗、秋刀魚、新米…どれをとっても季節を感じられるごちそうばかりですね。皆さまにも、そんな秋の恵みを通して、「ぬくもり」や心がほぐれるような時間を過ごしていただけたら嬉しいです。

次号は2026年3月に「春号」発行を予定しております。どうぞお楽しみに。

SNS



ホームページ

<https://mswgunma.or.jp/>

Facebook

<https://www.facebook.com/gmswa/>

Instagram

<https://www.instagram.com/gunmamsw/>



広報委員会

原島	歩志	(老年病研究所附属病院)
長野	明日香	(高崎総合医療センター)
星野	裕一	(鶴谷病院)
小淵	匡	(沼田病院)
小川	貴之	(桐生市医師会)
麻下	未帆	(希望館病院)
渡邊	凌佳	(前橋赤十字病院)
長峰	雅史	(前橋赤十字病院)



一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会
事務局 〒377-0007

群馬県渋川市石原2404-37

(おがた社会福祉士事務所内)

Tel:080-2308-1599 Fax:0279-51-988

